

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

読みに困難を感じる子どもの読書活動を 意欲的にする取り組みについて(3年次)

安来市立井尻小学校

和田 奈緒子

はじめに

本校は、全校児童22名の小規模校です。マルチメディアDAISY図書を活用した取り組みを始めて3年目となりました。

「一人ひとりが自分に合った形で読書活動を進めていく」という職員の共通理解のもと、それぞれの子どもたちがいろいろな方法や手段で読書の楽しさを感じながら自分に合った方法や手段を見つけてほしい、また書いてあることを理解しておもしろさを味わい、感想を簡潔に書いたり伝えたりすることができる力をつけてほしいと考えています。一人ひとりの様子を見ながら、気になることがあるとすぐに話し合い、やってみるという姿勢で今年度も引き続き取り組んでいます。

活用の実際

< Aさん(1年生)の様子 >

入学時には、ある程度のひらがなを読み書きすることができていましたが、入門期ということもあり、週1回の全校朝読書の時間や給食の待ち時間では、

ヘッドホンを利用してマルチメディアDAISY図書を活用した読書に取り組みました。

読み聞かせやマルチメディアDAISY図書での読書の場面において、絵を見てはいるものの表情に変化がないことや、文字を目で追う様子が見られないことが気になりました。

「この本読んだことあるよ」「このお話大好き」と話はするものの、登場人物や話の内容にかかわる質問をすると黙り込んでしまうことも多くありました。

国語の学習においても、ことばがAさんの中にとどまらず通り抜けていってしまっている感じがするという担任の先生の受けとめもあり、学校司書と相談し、Aさんの実態に合ったマルチメディアDAISY図書の本の選定や、読み終わった後に、お話クイズを行うようにしました。

『あおいともだち』(佐々木マキ・作 偕成社)

男の子が手紙をくれた“あおいともだち”を探して、いろいろな色の生き物と出会います。最後に出会った“あお

いともだち”と一緒に遊んですごします。

Aさんが、マルチメディアDAISY図書で、お話を読んだ後、今度は本を見せながら次のようなクイズを出しました。



Q1：男の子はだれに会いましたか。

→「しろいうさぎです。」

Q2：つぎに出会ったのは、誰ですか？

→「ねずみいろのかばです。」

本当にそうかなあ？

→（絵を見て）「ねずみいろのサイです。」

サイは、ねずみ色だったかなあ…。

何色ですか？

→（もう一度絵を見て）「ねずみ色です。」

（文字を指さして）ここを読んでごらん。

→（一文字ずつおさえながら）

「は、い、い、ろ…」

そうですね。“はいいろの サイ”です。



（途中略）

Q7：ぼくは“あおいともだち”と何をして遊びましたか？

→「ブランコと…」

ブランコをして遊びましたね。あともう一つ、これは何をして遊んでいますか？

→「二人でするやつです…。」

そうだね。二人で遊んでいるね。

これは何？

→「校庭のブランコの横にある。やったことないからわからない…」

では、ここを読んでみましょう。

→（指で押さえながら）「シ、ー、ソ、ー。」
そうです。あれはシーソーといひます。

Aさんは、絵をヒントに自分の知っていることばで答えたり、自分の経験を話しはじめたりすることがよくありました。「ここを読んでごらん」と声かけを続けたことでクイズの答えは文章の中にあるということに気づき、マルチメディアDAISY図書を読んでいるときにも、文字を目で追うようになりました。文章を正確に読み、絵と見比べて理解していく力がついてきたことがうかがわれます。

Aさんの「よんだよカード」

よんだ日 5/14	こんなおはなし よんだよカード1ねん①
5/14	ねん なまえ
*ほんのていどい コロ...でず	
*いちばん すきなところの え を かきましよう	
おもしろさ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆	

5月：DAISY図書を読んでいただけの時期

こんなおはなしよんだよカード2020 (2) No. ()

1年 名まえ ()

★本のだいめい あおいもたぢ

★かいた人 さきまぎ ★読んだ白 10/17

★ひとことメモ・かんそう おもしろさ (★ ◎ ○ △)

①このお話には何がでてきた? → あおいもたぢ

②お話を読んで、どう思った? →

わくわく・どきどき・はらはら・びっくり
たのしい・かなしい・じれったい・うれしい

あおいもたぢ
あそんでるところ
かたのしかって
す。

10月：お話クイズを始めてからのもの

表紙の絵や挿絵から気に入ったものを描くことが精いっぱいだった「よんだよカード」には登場人物の名前や行動とそれを読んだ自分の気持ちが書けるようになりました。

もうしばらく、Aさんに合ったマルチメディアDAISY図書の選定とお話クイズを継続し語彙を増やし、ことばと絵で本を楽しむことや、本を介して人とかわることを楽しむ経験を積んでいきたいと考えています。

<Bさん（2年生）の様子>

昨年度、入学してから継続的にマルチメディアDAISY図書を活用した読書を続けています。大好きな虫や動物の登場するお話は自分で読み、少し長いお話の本はマルチメディアDAISY図書で、と自分で選択をして活用をするようになりました。

その中で出会った『シップ船長とい

偕成社）は、大好きな海の生き物が出てきたことで興味をもって1冊分を聞きました。その後も、シップ船長さんがいろいろな生き物を船に乗せるところがお気に入り、シリーズの本を手に取り読書を楽しむようになってきました。国語の学習で、「船」の漢字を学習した際には「あ！ シップ船長の字だ！」と喜んで学習に取り組みました。

マルチメディアDAISY図書により、読書の幅が広がると同時に、漢字の学習にも生きています。Bさんの「よんだよカード」には、お話を読んでびっくりしたことや、すごいと思ったことが感想としていきいきとした言葉でつづられるようになり、文章の中で学習した漢字を使うようにもなってきました。

Bさんの「よんだよカード」

こんなおはなしよんだよカード2020 (2) No. ()

2年 名まえ ()

★本のだいめい シップせんちやうといふかみいしと船

★かいた人 かみいしと船 ★読んだ白 11/10

★ひとことメモ・かんそう おもしろさ (★ ◎ ○ △)

①このお話には何がでてきた? → (シップせんちやう)

②お話を読んで、どう思った? →

わくわく・どきどき・はらはら・びっくり
たのしい・かなしい・じれったい・うれしい

うみの中からは、うみいしと船
なうたいいしと船
でぎでいらいしました。

DAISY図書で読んだお話の「よんだよカード」

こんなおはなしよんだよカード2020 (2) No. ()

2年 名まえ ()

★本のだいめい ショーゾーみあてから

★かいた人 ロバート・ブライ作 ★読んだ白 11/10

★ひとことメモ・かんそう おもしろさ (★ ◎ ○ △)

①このお話には何がでてきた? → (あしはけ)

②お話を読んで、どう思った? →

わくわく・どきどき・はらはら・びっくり
たのしい・かなしい・じれったい・うれしい

あしはけ
あしはけの、ショウ
ゾーの家、もうとした
! どうしほうを、あし
はけからでます。

自分で読んだ本の「よんだよカード」

<Cさん（2年生）の様子>

昨年度1年間を通じて、マルチメディアDAISY図書を活用して読書を楽しんできました。Cさんは、目で文字を追って読むことよりも、音声で耳から入ってくることばによって内容の理解がスムーズに進むようです。今年度は、マルチメディアDAISY図書の活用の頻度は少なくなりましたが、全校朝読書の時間には、全校が読書をしているランチルームの隣の図書館で朝読書をしています。図書館では、AさんやBさんがヘッドホンを使ってマルチメディアDAISY図書を読んでいます。同じ空間でCさんは、自分の選んだ本を、声に出して読むこともあります。司書教諭や学校司書が中心となって、一人ひとりが自分に合った読み方で本を楽しむことができる場の設定をしています。



図書館で声に出しながら本を読んで全校朝読書をする子ども

<中学年以降の様子>

学年が上がるにつれてマルチメディアDAISY図書を活用する子どもは少な

くなっていきます。しかし実態としては、本を読むことが苦手、時間がかかる、長い物語にはなかなか手が出せない、本を読んでも挿絵に惹かれて内容理解まではむずかしいといった子どもがいます。

図書館の貸し出しカウンターには、さまざまな色や幅のリーディングトラッカーが常備してあります。子どもたちは、その日の本や気分、状態に合わせて自由にリーディングトラッカーを手に取り読書を行います。本を借りるのと一緒にリーディングトラッカーを選び、しおりがわりに活用している子どももいます。



リーディングトラッカーを使用して読書する子ども



全校朝読書の様子

マルチメディアDAISY図書を活用した取り組みを行ったことで、「人とは違う本の読み方」ではなく、「自分に合った読書の楽しみ方」がどの子どももできるようになりました。また、友だちの本の楽しみ方も、自然と受け入れることができているように思います。

来年度に向けて

3年間継続してマルチメディアDAISY図書を活用したことにより、一人ひとりが自分に合った形で読書を楽しむことのできる図書館のユニバーサルデザイン化が進み、だれもが読書を楽しめる環境づくりができたように思います。マルチメディアDAISY図書が子どもたちの日常の中にあり、意欲的に読めるようになった思いや読みの困難さが減ったことがその要因であると

思われます。

困難さや苦手さを感じ、遠ざかってしまう前に「便利さ」「わかりやすさ」「おもしろさ」を子どもたちが自分に合った形で体験できたことで、安心して自分の読み方を選択できるようになったのではないのでしょうか。

今後は、より身近にマルチメディアDAISY図書に触れられるように、他校でも取り組んでおられる図書一覧を作成し、子どもが本を手取るように「この本をマルチメディアDAISY図書で読みたい」という選書ができる環境整備と、マルチメディアDAISY図書の活用を足がかりに、導入が進んでいるデジタル教科書やデジタル教材を活用した学習のユニバーサルデザイン化も推進していきたいと考えています。

